



明けましておめでとうございます



今年も当センターを宜しくお願い致します。令和になり、初めてのお正月を迎えました。しかも今年は、子年なので再び十二支のサイクルが始まる年でもあります。例年以上に、気持ち新たに新年をスタートできる気がしますね。ねずみ年の「子」の字には、増えるという意味があり「子孫繁栄」の年になると言われているそうです。又、経済面でも「繁盛」「株が高くなりやすい」とも言われているそうです。今年は東京オリンピックがあります。日本全体が盛り上がる、明るい1年になると良いですね。

## 2020年オリ・パラ Year

～今年もスポーツを楽しみましょう！

明けましておめでとうございます。今年が東京オリンピック・パラリンピックイヤー。世界のトップアスリートによる真剣勝負を間近に見られると思うとワクワクしますね。前回（1964年）東京五輪、当時私は小学2年生でした。生まれて初めて見る五輪のスケールの大きさ、そして、“東洋の魔女”やマラソンの円谷選手、重量挙げの三宅選手ら日本人選手の活躍に大いに感動したものです。その一方で、ボブ・ヘイズ（100m金メダル）ら外国人選手のずば抜けた身体能力に驚愕したことを覚えています。「どうすればあんなカラダにはなれるのか」などと考えたりしました。当時、私は肉類があまり好きではなかった（というか食卓にほとんど出なかった？）のですが、ある日を境に積極的に肉類を食べるようになりました。そのきっかけは東京五輪の記録映画でした。この映画で印象的だったのが競技よりも食事のシーンで、皿に盛られた肉を外国人選手がモリモリ食べている姿だったのです。それを観た私は「そうか！彼らのようなカラダになるには肉が必要なのだ」と勝手に思い込み、その結果、肉類を食べるようになったという訳です。

おそらく私のように単純な子供たちが少なからずいたのではないかと思います。それほど東京五輪は私にとってカルチャーショックというべきものでした。今年64歳になりますが、現在も健康でいられるのも五輪によって運動や食事の大切さに気づかされたお陰かなと思っています。2020年東京オリ・パラによって、かつての私のように刺激を受けてスポーツを始めたり、食わず嫌いでなくなったりする子供たちがたくさん増えることを祈りつつ、新年の挨拶といたします。



杉山 誠一



新年明けましておめでとうございます。本年も皆様の健康増進・症状改善のため、スタッフ一同 全力で施術に努めてまいります。2020年が皆様にとりまして良き一年でありますように ——  
臨床センタースタッフ一同

## 【1月休診日】

1～5日（冬期休暇）、  
12日、  
13日（成人の日）  
19日、26日



杉山 誠一（すぎやま せいいち）

出身地：静岡県  
東海医療学園専門学校 学校長

